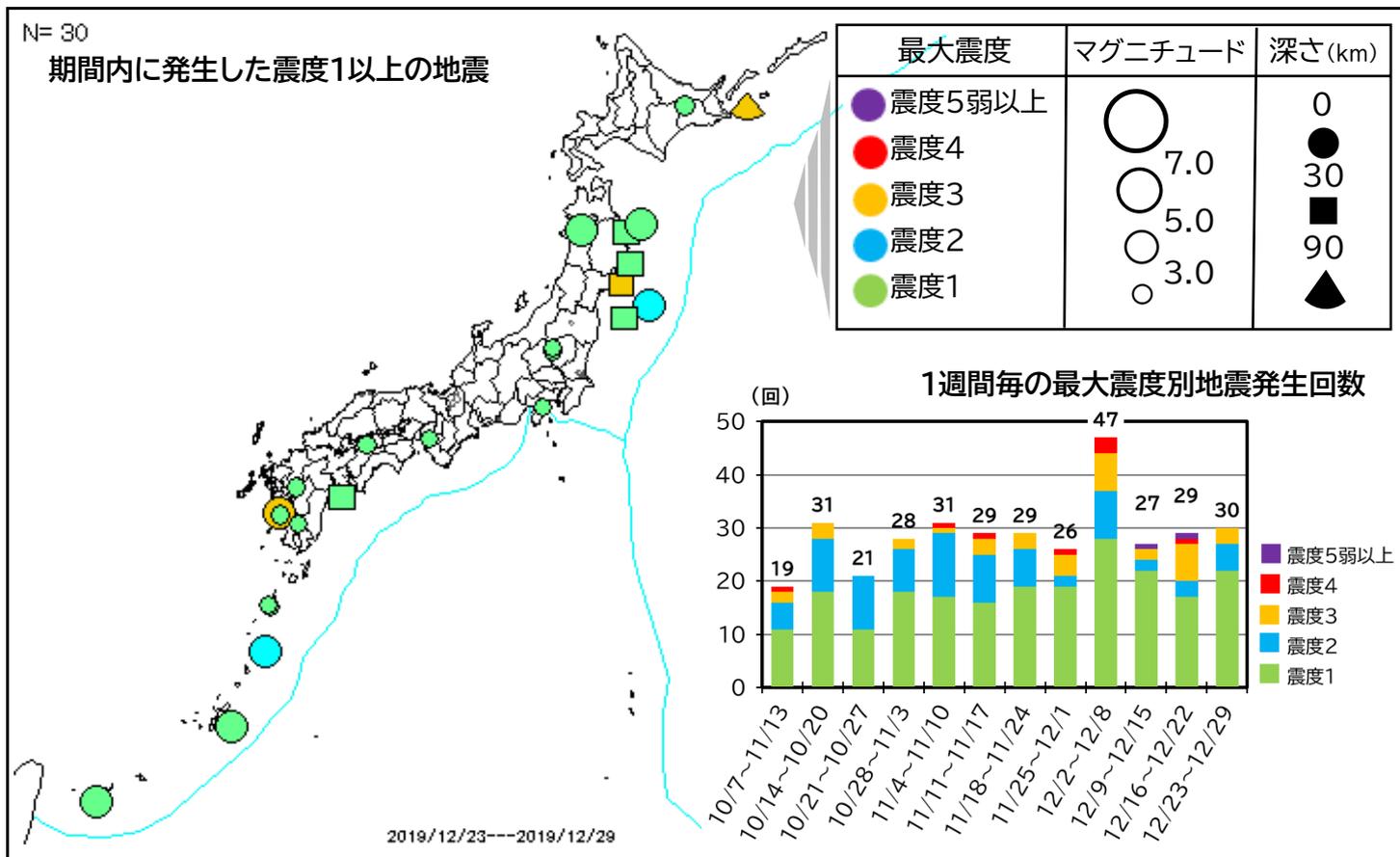


この期間の最大震度は3

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況

- この期間中、震度1以上の地震は30回。最大の震度は3で3回 ■
- ・最大の震度は3で、特記するような地震は久しぶりにありませんでした。年末・年始も穏やかであることを願うところです。

トピックス

■ ビーチボールから断層の形状をイメージする ■

- ・大きな地震が発生した際に気象庁から発表される報道発表の一つに、断層の形状について、ビーチボール(若い人に分かるかどうか疑問ですが、昭和世代はピンと来るハズ)のような図1を示しながら解説が行われます。
- ・断層の形状は図3のような立体図で示した方が分かりやすいと思いますが、気象庁からはビーチボールが発表されるので、図1は図3のどれに該当するのかをイメージすることが求められることとなります。簡単なイメージ方法を以下に記します。図2は図1を説明するために、色付きの線を加筆しています。

★一言でいうと★「中心付近が黒なら逆断層、白なら正断層、交差なら横ずれ断層」  
「円弧(図2の赤・緑線)の張り出し方向が断層面の傾斜方向」

- ・逆断層、正断層の判断は容易ですが、断層面の傾斜方向(図3右部分の立体図の左右どちらなのか?(東に傾斜しているのか?西なのか?))をイメージするのは厄介です。図1の2本の円弧のどちらかが断層面、この円弧は傾斜の方向も表していますが、この図からだけでは、どちらが断層面が分からず、余震分布から判断します。
- ・図4は余震分布図です。余震は、平面図を見るとほぼ南北に並んで、断面図を見ると西から東側に向かって傾斜していることが分かります。このことをビーチボールでは右側の円弧(図2の赤線)で示しています。
- ・つまり、このビーチボールは、右側の円弧(図2の赤線)が断層で、円弧が東に張り出しているので断層面は東側に傾斜している地震であることを表しています。

